

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

目標値:国語科98以上、算数科98以上(全国を100とした文科省標準化得点)

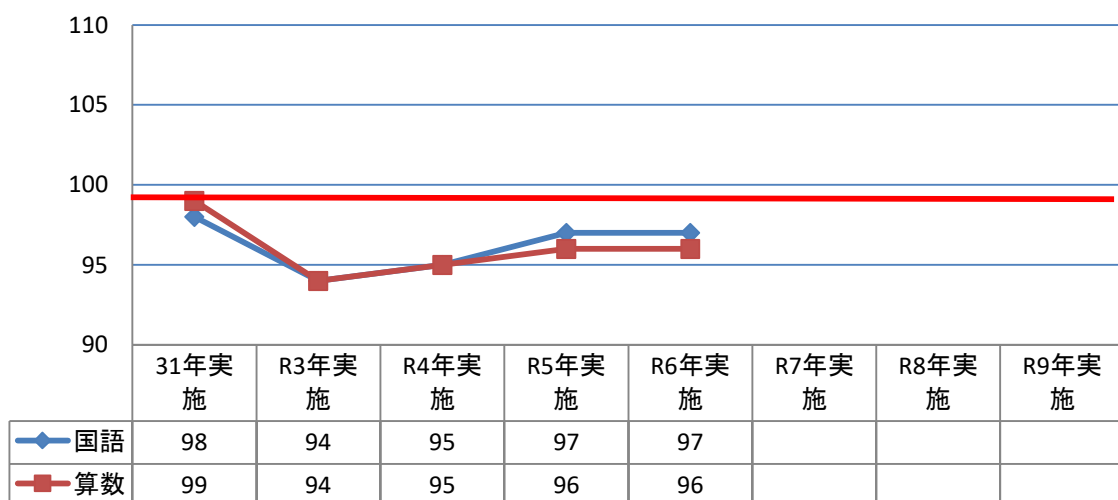
3.指標に向けての取組

- 正答率の低かった問題の内容・趣旨の共通理解及び児童の実態分析
- 授業の中での思考を伴う書く活動の位置付け
- 児童が落ち着いて学習に取り組むことができるための環境整備
- 算数科を中心に、複数体制・分割による指導
- C・D層の児童の基礎学力の定着に向けた学びタイム、チャレンジタイムの設定

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	97	96
嘉麻市	97	99
全国	100	100

推移



5.各学校における分析

○国語科、算数科ともに、短期指標の目標値に達していない。
○国語科は、「情報の扱いに関する事項」「話すこと・聞くこと」に課題がある。
○国語科は、記述式の問題の正答率が高く、条件に合わせた記述ができていた。
○算数科は、領域では「数と計算」「図形」、観点では「知識」「思考・判断・表現」について課題がある。
○算数科は、数値だけを答える短答式はある程度正答しているが、記述式に課題がある。資料から必要な情報を取り出して、条件に合わせて記述することに苦手さが見られた。
○国語科、算数科ともに、中位層の割合に伸びが見られるものの、約7割がCD層であり、A層の割合が全国に比べ、低い。

6.各学校における今後の取組

○校内の研究では、算数科を中心に、自己存在感の感受や共感的人間関係の育成、自己決定の場の提供など、生徒指導上の視点を生かした授業づくりを行う。
○学力の個人差が大きい算数科を中心に、複数体制による指導を行う。また、重点單元においては、分割授業を行う。
○基礎学力定着(特に、C・D層の児童)のために、全学年毎月チャレンジタイムの時間を設定し、テキストや補充プリント、AIDリルのキュービナを活用しながら、読解力や計算力等の向上を図る。
○家庭学習においては、家庭学習強化週間の設定を行い、家庭と連携しながら、家庭学習の習慣化を図る。
○朝の活動として、週1回の読書タイム、3回の学びタイムを位置づける。学びタイムでは、10ミニやカスタなどを活用し、基礎学力の定着や、活用力の向上に努める。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIDリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。
また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。
◆学力向上検証委員会を開催し、単元や学習のまとまりを単位とした学習状況の把握と個に応じた指導の工夫を推進する。そのために、各学校においてトリプル80の視点から評価を実施するとともに、学力向上検証委員会において、授業づくりや学力向上の取組に対する組織的な評価・改善の在り方について指導する。